

治療委員申報諸表第九
審査委員申報諸表第十
新築病院全圖第十一

脚氣病院第二報告

○脚氣病院患者總表第一附入院患者一覽表

脚氣病院患者總表 自明治十二年四月一日至同十二月十日

編輯專任

石黒忠惠纂輯

脚氣病院設立ノ主旨ハ明治十二年第一報告ニ詳ナルヲ以テ
今復贅言セス茲ニ特ニ今年ノ各報ニ據テ得ル所ノ患者總表
ヲ掲載スルニ先テ其解説ト編輯者ノ所見トヲ記述セント
欲ス此表中ニ外來患者ト稱スル者ハ病院ニ來テ診治ヲ乞フ
モ皆ナ其自家ニ在テ加療スル者ナリ故ニ去就常ナク爲メニ
病ノ經過全體ヲ通診スルヲ得サル者十中常ニ八九ニ居ル
故ニ其症ノ治不治轉歸ヲ記スルヲ得ス唯各治療委員ノ擔
當スル入院患者ニ就テノミ之ヲ詳ニスルヲ得ルモノナリ而

シテ入院患者ノ表中所謂患者數トハ其病室ニ在テ治療ヲ受クル者ノ總數ナリ其全癒退院トハ病己ニ快癒シテ全ク平常ニ復スル者ナリ事故退院トハ病未タ痊ザレテ事故ノ止ムヲ得サルアルカ爲メニ治療半途ニシテ退院スル者ニシテ中ニ就テ第四區ノ如キハ初診ノ際病既ニ危篤ニシテ復タ其治法ヲ加フ可カラサルト認ムルキハ直ニ之ヲ第五區ニ送ル者亦此中ニアリ詳ニ之ヲ述レハ事故退院總計二十七人其十三人ハ第四區委員ノ不治ト診定シテ第五區ヘ送ルモノ其六人ハ第四區ノ食餌藥劑ニ堪ヘスシテ退院シタルモノ其八人ハ止ムヲ得サル事故アルカ爲メニ退院セルモノナリ
今本院昨今兩年ノ表ニ就キテ脚氣病者ノ治死ヲ按閱スルニ脚氣病者百人ニ就キテ全癒者六十四人餘死亡者十二人餘又陸軍省ノ病類表ヲ按スルニ脚氣病者百人ニ就キテ明治十一

年ニハ死亡二人九分餘同十二年ニハ死亡二人三分餘ナリ
入院患者死亡ノ比例本文陸軍省ノモノニ比スレハ甚タ多キハ當院ニ入院スル者ハ重モ中等症以上ノ者ニシテ陸軍省病類表ニ載スルモノハ輕中重症共ニ仔細綿而シテ他ノ一二劇病密ニ其調査數中ニ羅網スルヲ以テナリ
ノ近例ヲ舉クレハ(虎列刺)ノ如キ無比ノ劇病ハ姑ク置テ論セス(腸窒扶斯)病者百人ニ就キ死亡二十六人餘天然痘病者百人ニ就キ死亡三十一人餘赤痢病者百人ニ就キ死亡二十六人餘實布の里亞病者百人ニ就キ死亡二十五人餘ナリ今此諸病ニ死スルモノ、數ヲ以テ前文脚氣病ニ死スルモノ、數ニ比較スル時ハ脚氣病ノ如キハ世人憶想スル如ク劇惡ノ病トナスニハ足ラサルカ如シト雖モ亦百發百中之ヲ救治スル方法ノ發明ナキニ至テハ上ノ諸病ト異ナラサレハ苟モ醫學ニ從事スルモノハ之ヲ輕忽ニ附スルヲ得ス又試ニ漢洋二流療法ノ差等ヲ本院兩年ノ實驗ニ徵スルニ第二第三兩區
法ノ病者平均

百人ニ就キ全癒五十一人死亡十二人餘ナリ但シ第五區法ニ
 於テハ第四區法ニ於テ不治ト認定謝絶シタルモノヲ受ケ之
 ニ反シテ第四區ニ於テハ此重症病者ヲハ一般ニ受ケサルヲ
 以テ算スレハ洋方ニ於テハ重症病者ヲ受クルヲ漢法ニ於ケ
 ルヨリ多ケレモ尙ホ病者百人ニ就キ全癒者六十六人餘ノ多
 數ヲ得タリ是ニ由テ之ヲ觀レハ脚氣病ハ其病勢ノ緩劇ト患
 者ノ體質トニ由テ治療ヲ異ニスルヲ他ノ諸病ト一般ニシテ
 所謂一種特效秘藥ナルモノアリテ眞ニ各人ニ通用シテ確實
 ノ奇効ヲ奏スルモノナキハ蓋シ智者ヲ俟タスシテ明ナリ要
 スルニ病理原因ノ考究漸ク蘊奧ヲ極メ其理ニ據テ治術ノ方
 法ヲ求メハ死亡ノ比例隨テ減少スルニ至ルヘシ尙各委員ノ
 申報ヲ細讀スレハ自ラ悟ル處アラシ

脚氣病院二年間平均全癒死亡比例表

各區分	患者百人ニ就 キ全癒	患者百人ニ就 キ死亡	備考
第一區	五十一人餘	二十人餘	今村亮擔當輕重病 者共ニ混入ス
第二區	八十人餘	十三人餘	小林恒擔當輕重病 者共ニ混入ス
第三區	七十九人餘	十二人餘	佐々木東洋擔當輕 重病者共ニ混入ス
第四區	五十人餘	三人餘	遠田澄庵擔當重症 病者ハ受ケス
第五區	六十六人餘	二十四人餘	佐々木東洋擔當重 症病者而已ヲ集ム
五區平均	六十四人餘	十二人餘	

患者總計八百二十名

入院患者二百三十八名

外來患者五百八十二名

百五十九名
二十三名
二十七名
四名
全癒退院
半癒退院
事故退院
死亡
後遺

脚氣病院入院患者一覽表
自明治十二年四月一日
至同月十四日

病室區分	患者數	全癒退院	半癒退院	事故退院	死亡	後遺	患者百人ニ付全癒北例	委員姓名
第一區	五二、三三	八	三	八	〇	六三、四六六	今村 亮	
第二區	五二、四四	一	一	四	二	八四、六一五三	小林 恒	
第三區	五七、三七	八	二	八	二	六四、九一〇五	佐々木東洋	
第四區	五八、三一	六	二〇	一	〇	五三、四四四八	遠田澄庵	
第五區	一九、一四	〇	一	四	〇	七三、六八四二	佐々木東洋	

各治療委員申報第二

主任 今村 亮

入院患者總計五十二名
男十八名
女四名

全癒退院
半癒退院
事故退院
死亡